

## 1. 参考文献

- ・黒田晁生、『入門金融』第三版、東洋経済新報社、2002年（第10章）
- ・東京証券取引所のホームページ：国債先物の部（<http://www.tse.or.jp/option/jgbf/index.html>）等

## 2. 原債権と先物など

- ・原債権（取引の対象となるもの）は多様：長期国債、株式、商品など  
大阪では、江戸時代から先物取引が行われていたことで有名（堂島の米市場）
- ・**先物**：将来の原債権の売買価格を予め決める取引・・・類似の取引に「先渡」もある  
限月（将来のいつの時点の取引か）や決済ルール（差金決済か現物渡しか）を定める
- ・**オプション**：将来一定の価格で原債権を売買する権利を売買する取引  
買う権利の「コール・オプション」、売る権利の「プット・オプション」の売買が基本
- ・**スワップ**：価値が等しいと判断された債務やキャッシュフローを交換する取引  
異なる通貨を交換する「通貨スワップ」、異なる金利タイプを交換する「金利スワップ」

## 3. 国債先物取引

- ・東京証券取引所で「国債先物」を売買：各種国債の「標準もの」を売買  
長期国債は10年もの・クーポン率6%、中期国債は5年もの・クーポン率3%を標準としている
- ・限月は、3月、6月、9月、12月のうち3限月（最長9か月）：各限月の20日に受渡決済  
差金決済ができる（反対売買など）ほか、現物による受渡しも認められている。
- ・売買単位は額面1億円：大口投資家のための市場  
国債価格が変動するリスクをヘッジすることなどができる

## 4. 株式先物取引

- ・東京証券取引所（TOPIX先物）、大阪証券取引所（日経225先物等）で株価指数先物を売買  
日経225は東京証券取引所のデータに基づき算出しているのに大阪証券取引所で取引
- ・限月は、3月、6月、9月、12月の5限月（最長1年3か月）  
最終決済では、差金決済が行われる（株価指数の現物がないため）
- ・取引単位は、TOPIXの数字×1万円、日経225の数字×1千円  
株価指数が変動するリスクをヘッジすることができる（個別株の変動リスクではない）

## 5. オプション取引とスワップ取引

- ・**コール・オプション**（将来買う権利を売買） **プット・オプション**（将来売る権利を売買）  
アメリカン型（いつでも権利を行使可能） ヨーロッパ型（特定日に行使可能）の分類も
- ・証券取引所で扱われるオプション取引もみられる（TOPIXオプション、日経225オプション、株券オプション）
- ・スワップ取引はOTC：通貨スワップと金利スワップが良く知られている  
通貨スワップの例：ドル建ての債務と円建ての債務の交換  
金利スワップの例：変動金利の債務と固定金利の債務の交換（固定金利側がスワップ・レート）

以上